

2022年度第2回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会

議事要旨

- 【日時】 2022年11月10日（木）午後6時00分～午後8時05分
- 【場所】 町田市庁舎5-3会議室
- 【出席者】 委員：松波委員（委員長）、奥委員（職務代理）、
森委員、屋委員、斎藤之良委員、土肥委員、齋藤栞帆
委員、山本委員
事務局：町田市環境資源部 野田、塩澤
環境政策課 高橋、廣瀬、土志田、島田、藤森、野地
コンサルタント：アオイ環境株式会社
- 【欠席者】 斉藤崇委員
- 【傍聴者】 な し

議題

1 2021年度実績の評価について

(1) 第1回委員会での質問に対する回答

- 事務局から、説明を行った。

土肥委員：今回報告があったグリーン購入及び廃棄物について、問題であること、ないことを確認し、アクションにつなげることが大切である。そこまでの報告がなかったことが残念。グリーン購入について、価格優先であることが悪い場合には購入の際に環境資源部を必ず通すとか、やむを得ないケースがある場合には測定の対象から外すとか。品質優先においてやむをえないケースでは個人情報が見えてしまうから性能未達である、など結論まで記載してほしい。ボールペンの発色がよいから、となっているが、それがグリーン購入上よいのか、悪いのか、悪いならどうアクションすべきなのか、といったところまで確認したい。

事務局：グリーン購入について、学校や市長部局のうち悪いところから対応していく。よくできている部署の取り組みはヒアリングして、その結果を小中学校の校長会に報告するなどして展開する予定。よい取り組みについては、全庁にも周知していきたい。廃棄物について、市では一般廃棄物資源化基本計画に基づき、排出削減や資源化を推進しているため、それと連携して減少に向け

て取り組んでいく。まだ再利用できていないものはその率を上げていく。トータルで減らすことも、廃棄物担当部署と共有しながらやっていきたい。

土肥委員：説明いただいた内容を資料にぜひ書いてほしい。規格準拠の視点ではエビデンスが求められる。

奥委員：資料4-2の廃棄物の組成の内訳において、再利用率、再利用量が低いのはその他一廃廃棄物、その他産業廃棄物となっている。その他の中にそもそも何が入っているのか、組成がわからない。再利用不可のものは仕方がないが、再利用可能なものがどれほど含まれているかがカギになる。これらの内訳はわかるものか。

事務局：この調査ではそこまで把握できていない。ヒアリングしないと詳細は把握できない。

奥委員：その他の中身を把握しないと改善の余地があるかがわからない。そこから手を着けることが必要と感じた。資料3の廃棄物が増加した要因では、単位が書いていないが何か。

事務局：単位はトンである。2021年度は前年度比で50トン程増加した。2020年度にあった学校の休校期間がなくなったことなどにより給食の残さなどが増加した。

奥委員：全体の量は修正があるか。

事務局：全体の量についての修正はない。

(2) 一次評価について

- コンサルタントから、説明を行い、司会を務めた。

評価項目(1)温室効果ガス・エネルギー

コンサルタント：4点にした理由はあるか。

森委員：評価の対象と基準をもとに4点とした。温室効果ガス排出量が2015年度比、3.6%削減であり、前回の実績報告書や説明からも明らかであったため。基準に基づいた客観的な評価とした。

コンサルタント：他の点数にした理由はあるか。

松波委員長：3点とした。いくつかやむを得ない事情がある中、温室効果ガス排出量は前年度比で7.2%増加となった。4点、5点はつけられないため3点とした。

森委員：この評価項目では基準があつて、急には下げられない。新型コロナウイルスのため2020年度に減少し2021年度に増加した

ことは当然であるが、取り組みは5年かけて計画的に進めるものなので、2015年度比で評価するものとする。

松波委員長：毎年度、評価をしてきているため、外部評価としては2015年度と比べることは適切ではない。

森 委 員：年度毎の評価ということであれば2020年度の評価はよい評価だったと理解する。

コンサルタント：前年度比でどうか、というのも評価のポイントになる。

事 務 局：2020年度は新型コロナウイルスにより施設の休館などエネルギー消費量が減少した。またCO₂の排出係数の低い電力会社と契約できた成果がみられた。ただし、昨今の電力供給の状況では限界がみえている。

コンサルタント：目標達成状況、経年変化の状況、他の委員の意見を踏まえ、二次評価をお願いする。

評価項目(2) 資源（廃棄物）

コンサルタント：2点とした理由はあるか。

山 本 委 員：廃棄物の排出量が年々増えている。減らすことに限界があれば、再利用を増やす方法を考えるしかないとする。

コンサルタント：2015年度比で2021年度は19%増加した。

斎藤之良委員：廃棄物排出量が増加傾向のため2点とした。2020、21年度で、新型コロナウイルスにより生活様式が大きく変わってきた。リモート会議が一般化し、ネットショッピングも増加した。また、2015年度比で一定程度増加したことには潜在的な要因もあるのではないか。要因までみないと減少させることは難しい。

コンサルタント：他の点数にした理由はあるか。

屋 委 員：3点とした。増加要因である落ち葉雑草への対応は仕方ない。市の新しい施設などを活用して再利用を増やせるとよい。

コンサルタント：できるものは再利用していく、方策として打ち出して削減進めることが期待される。

コンサルタント：経年変化の増加状況もふまえ、他の委員の意見も参考にして二次評価をお願いする。

評価項目(3) 資源（紙）

コンサルタント：経年変化から評価をする項目となっている。

- 奥 委 員：これまでと変わりがなく、目覚ましいところもないため3点とした。2018年度から集計方法を変更しているため、それ以前との比較もできない。
- 森 委 員：紙購入量の減少がみられたため4点とした。児童1人1人にタブレットを配備するなど、紙を配る時代でなくなってきた。2021年度に配備し、2022年度はそれを活用していることから、2022年度実績における現場での効果が期待される。
- 土 肥 委 員：紙の視点では段階立ててよくやってきているため4点にした。ただし、タブレットでも数年でこわれる場合がある。また、紙について評価することの意義が分からなくなったため確認したい。
- コンサルタント：紙は特徴的な取り組みであり、ほとんどの自治体で行っている。紙は資源であり3Rしやすい。市庁舎からの廃棄物の9割が紙であり、紙の使用は全ての部署で共通の取り組みができるのがポイントである。その他の廃棄物だと、多くの事務所では出ないとか、食べ物は学校だけ出るとか、共通の取り組みがしにくい面がある。
- 松波委員長：もともとは廃棄物削減のため、紙の排出を減らすことから始まっている。指標が購入量となっているが、これは3Rの観点から測っている。
- 土 肥 委 員：エネルギーを使用して紙を廃棄したらよくないという意味で評価をしているということで理解した。

評価項目(4)グリーン購入達成率

- コンサルタント：4点とした理由はあるか。
- 屋 委 員：4点とした。達成率が3か年向上しているためよくやっている。ただし、目標値もなく、環境負荷低減の目的についてもやっとした印象がある。企業では脱炭素を目標立ててやっている。地球温暖化対策など、目標をより明確にするとよい。
- 山 本 委 員：達成率8割ということで3点とした。達成率をより上げるには、学校などに調達の仕事や流れをマニュアル化してもらうことが必要と感じた。
- 斎藤之良委員：3点とした。各職場で調達していると思うが、全体としてどうやっていくのか、全体像がみえてこない。何%がよくて何%がよくないのか、今年はどこまでもっていくか、予算はこれだけとります、などがあつた方がよい。

土肥委員：グリーン購入については、やむをえない事情があるため、達成率100%にはならないケースもあり、どこかで無理が出てくる。このため、議題1（1）での意見と同様だが、現状把握をし、きちんとアクションまで整理するようにお願いしたい。

コンサルタント：経年変化の増加状況もふまえ、他の委員の意見も参考にして二次評価をお願いする。

評価項目(5)エコオフィス活動（職員共通）

コンサルタント：4点が多いが、理由はあるか。

松波委員長：よくできてはいるが全てができていないわけではないので4点にした。

奥委員：例年よくやっているが、100%ではないので4点にした。

森委員：よくやっているため4点にした。環境推進員が各職場で愚直に取り組んでいる。あとは、属人的にならないように、他の職場への展開もあるとよい、といったことで意見を書いた。弊社の経理職場では同じような職場に行って改善に向けた指摘をしてもらうこともしている。気づかせる取り組みをしてはどうか。

コンサルタント：他の委員の意見も参考にして二次評価をお願いする。

評価項目(6)エコオフィス活動（施設担当部署）

コンサルタント：4点が多いが、理由はあるか。

森委員：4点とした。昼休み時の照明消灯の実施に関しては継続的な啓蒙活動が大切である。この際、消灯時に足元が見えにくくなって事故に繋がるリスクもあるため、通路の整理整頓にも注力していくべきだと考える。

土肥委員：どうしても仕事しなくてはいけないのに、照明が消されて真っ暗だと困る。全体を消灯するが、やむをえない作業スペースには照明をつけるような場合でも全体ではできている、でよいかと思う。自動化されているところとされていないところでは、評価基準を変えないといけない。

コンサルタント：他の委員の意見も参考にして二次評価をお願いする。

運用状況

コンサルタント：3点が多いが、理由はあるか。

奥委員：環境法令の遵守について不適合がまだみられるため改善が求められること、研修の受講率の低下もみられることから、3点とした。

コンサルタント：環境法令の遵守については、各委員から同様の意見が多く、共通した評価、意見といえる。

斎藤之良委員：きちんとできているところがある一方、法令遵守ができていない面もあるため、3点とした。

屋委員：内部環境監査はよくやっている。気候変動への対応は、政府含め刻々と状況が変わる。現在はCOP27が開催中である。国ではGX（グリーントランスフォーメーション）実行会議が開催されており、今後10年間に150兆円規模の国債を発行すること、排出量取引を行うことなどが検討されている。自治体でも最新の情報をとらえ、庁内で共有するとよいと思った。

土肥委員：前回色々と意見を出したが、法令遵守の不適合のところは早期に改善をお願いする。不適合の状態はすぐには改善しないのは分かるが、何年か後に改善するなど計画立てをしてほしい。この件に関して、現在、市が改善に向けて具体的に取り組んでいることは何か。

事務局：2021年度、法令遵守の不適合が多くあった。是正がいつまでにできるか、是正状況の調査をしている状況である。是正できていない場合はいつまでにできるか、該当部署にはヒアリングすることも考えている。

事務局：部長職で構成する会議で、法令遵守が不適合である部署を名指しして報告するように今年度は行った。年度が終了する時点で不適合と指摘しても遅いことから、年度途中で是正に向けた取り組みを進めるようにしている。

土肥委員：その会議で是正の期限を定めたか、期限を定めるのはいつまでにできるのか、このあたりを確認したかった。

事務局：法令遵守が当然で対応すべきだが、是正がなかなかできないものもある。比較的容易に対応できるものは期限を定めるまでもなくすぐに対応するように、該当部署に依頼している。

コンサルタント：他の委員の意見も参考にして二次評価をお願いする。

コンサルタント：2021年度は重点的に取り上げたいものをここで記載した。環境パフォーマンスと環境活動状況の大きく2点とし、前者では温室効果ガス排出量、資源（廃棄物）、グリーン購入達成率を、後者では、環境法令遵守を取り上げていた。今回のまとめについてご意見を願います。

松波委員長：取り上げる事項は前回同様でよいと考える。温室効果ガス排出量、資源（廃棄物）、グリーン購入達成率は重要なテーマであるため、引き続き環境パフォーマンスで取り上げたい。
環境活動状況においても、法令遵守の不適合の状況が24件と残っている状況がみられるため、0件を目指すといった観点で意見するようにまとめていただきたい。

奥委員：松波委員長と同意見。

森委員：松波委員長、奥委員と同意見。環境法令の遵守も道半ばであるためしっかりと対応してほしい。

斎藤之良委員：戦略、方策をどうしていくかをみたい。紙について、計画策定部門では増加がみられるため、デジタル化するよう意見したが、情報の閲覧をどう効率的にするかがポイントになってくる。一度しか見ないものは無駄となるが、何度も見るものなら無駄ではない。また策定作業において同時に色々な情報を見る際には紙の方が効率は良くなる場合もある。学校のタブレット配備も、ITリテラシー教育のためなど別の目的もあれば有用といえるが、数年でこわれるのであれば効率の面ではよいとはいえない。

コンサルタント：各委員の意見もふまえて二次評価シートへの反映をお願いしたい。

土肥委員：まとめはこれまでの委員の意見に賛成。ただし、エコオフィス活動はよくやっているのに、1行だけの評価だと弱い。項目立てをする程ではないが、もう少しよく評価するよう表現を工夫してほしい。

コンサルタント：本日、各委員からいただいた意見と、今後行っていただく二次評価の意見が多かった項目等を踏まえて、こちらの方で報告書をまとめさせていただく。その後、最終的には松波委員長に確認いただく形で進めていく予定である。ほかに意見はないようなので、松波委員長にお返しする。

松波委員長：本日ご審議いただいた内容及び会議後にご提出いただく「評価シート」の内容をもとに、報告書をまとめさせていただきたい。作成した報告書案は、後日各委員に送付するので、確認をお願いしたい。そのうえで、最終的な報告書の完成にあたり、文言等、

軽微な訂正は、委員長一任で修正させていただきたいと思うがよろしいか。

全 委 員：異議なし。

2 町田市第5次環境配慮行動計画について

- 事務局から、説明を行った。

土 肥 委 員：重点プロジェクトの次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用について、2050年度までに100%次世代自動車化という目標設定が甘いと感じた。車の使用期間は10年程度であり更新の機会はある。電気自動車までいかなくてもハイブリッド車であればガソリン車の金額に近く、調達しやすくなってきている。例えば、ハイブリッド車への更新により、次世代自動車化1台分とはいかなくても0.5台分でカウントすることで目標達成がもう少し早く実現できるようになる。策定済みの計画であることは理解したので、内部的な目標設定や取り組みについては工夫することをお願いしたい。

事 務 局：計画は策定済みのため変更できないが最低限達成すべき目標としてとらえている。早めの達成ができるように進めていきたい。

連絡事項

- 今後の外部評価委員会の流れについて、事務局から説明した。

以上